



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

「令和」をむかえて

校長 道山 正史

「平成31年」で始まる10日間の連休を終えると、「令和元年」が始まっています。先日の全校朝会では、休み明けの生活について注意を促したところです。普段はないこのように長いお休みの期間を、どのように過ごすかということについて、頭を痛めている方もいらっしゃるでしょうし、計画が立っている方も、また逆に連休はうちには関係ない、いつも通り仕事です、という方もいらっしゃいます。私が通っている病院も祝日と土日以外通常診療なので助かりますが、お医者様も大変だなあと感じます。ただ、いずれの場合でも、子供は学校が休みということは共通しています。

さて、この期間中に、子供たちにご家庭でお話していただくといいなと思うことがあります。それは、保護者や地域の方が生きてきた「昭和、平成」という時代(なかには平成だけの方もいらっしゃるでしょうし、大正が入ってくる方もいるかもしれません。)、これからの「令和」という時代について、テレビなどで放送していることだけでなく、大人の生の声で「こういうことがあった、こういう時代だった、こういう生き方をしてきた」そして、「こういう時代になってほしい、そのためにこうなってほしい、こういう生き方をしたい」ということなどを、子供たちの年齢に合わせて、伝えてほしいということです。時代が変わることや憲法記念日やこどもの日などの祝日の意味を教えるのと同時に、身近な大人が子供にむかって、自分が生きてきたこれまでを語り、これからの希望を話してあげることで、大人たちの願いを感じ、子供自身もこれまでを振り返り、目標をもち、夢をもつ、よいきっかけになると感じます。

大人が生で語る事が、スポーツのことになるのか、仕事のことなのか、国際関係のことになるのか、この町のことになるのか、はたまた家族の歴史やできごとのことになるのか、学生時代の思い出になるのか、あるいは語る人そのものことなのか、それは、私たちが置かれている環境や想いで決まってくると思いますが、真剣に向き合って話す少しの時間が、子供たちの未来を創っていくのだと思います。

読書旬間について

旭町小学校では、週3回の朝読書の他、年2回の読書旬間を設けて、読書の好きな子供を育てています。今回の読書旬間は、読書の記録をつけたり、お勧めの本を紹介したりします。

また、図書ボランティアの方々に、読み聞かせや、図書室整理・学級文庫の選本を行っていただいているおかげで、読書環境が大変充実しています。

この期間に学校での取り組みと一緒にご家庭でも、親子で読書の時間にしてはいかがでしょうか。

(学校図書館部 柏倉 唯 三宅 裕美)